

1 この科目の構成について

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位	2	単位
対象コース	全コース	コース	対象クラス	1 年	1～7 組	
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造					
使用副教材	家庭基礎 自立・共生・創造 学習ノート					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

家庭生活に必要な知識や技術を身につけるだけでなく、社会の課題と暮らしを結び付けて考え、新たな価値観や行動を生み出すことを目標とします。また、地球環境や社会および経済について総合的に考え、持続可能な社会への課題と向き合い、家庭科で学んだ知識や技術を生かして、持続可能な社会を作る担い手となることを目標とします。

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

- (1) 自分らしい人生をつくる→今の自分を見つめ、青年期の自立について考え、家族や社会との関わりについて学びます。
- (2) 高齢社会を生きる→高齢者になるとはどのようなことかを知り、これからの高齢社会を生きる者として充実した毎日を送ることができる社会を考えます。
- (3) 食生活をつくる→より良い食習慣を身に着けるための知識や技術を身につけます。
- (4) 衣生活をつくる→健康で快適に装うためには、どのように衣生活を組み立てるのかを考えます。
- (5) 消費生活を営む→持続可能な社会を形成していく一員として、意識的な経済生活を営むにはどうすればよいか考えます。
- (6) 子どもと共に育つ→子どもの育つ力を理解し、親になった時、子供とどうかかわり、育んでいくかを考えます。
- (7) 住生活をつくる→安全で快適な住居を整え、持続可能な住生活について考えます。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

授業ではプリントが配布します。口頭での説明も大切なことがありますので、メモをしましょう。現在の生活に役立つ知識を説明する場合もあります。

(2) 家庭

授業で得た知識を実生活で応用できるように、日頃から心掛けることが大切です。

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

- (1) 定期考査→年2回(第2回と第4回)行います。授業で学習した内容が出題されます。
- (2) エプロン製作→エプロンを完成させ、ミシン縫いやボタンの付け方がよいかチェックします。
- (3) 調理実習→実習に望む態度が意欲的か、エプロンを忘れてきていないかを見ます。
- (4) ワークシート→グループ学習で意見などを記入したプリントを提出しているかチェックします。

評価における定期考査の割合

80 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 知識・技能

授業で学んだ知識が身に付いているかを定期考査や小テストで評価します。

(2) 思考・判断・表現

授業での知識を活かし、物事を発展的に考えられるかを、授業の最後に提出する意見・感想のコメントで評価します。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

授業での発言が積極的であり、実習に取り組む姿勢が意欲的かを評価します。

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				評価の観点			CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	知	思	主	○△×
1	4	第1章 生涯を見通す 1. 人生を展望する 2. 目標をもって生きる	1. 各ライフステージの特徴と課題を理解します。 2. 青年期において、自立して生きるためにはこれから何が大切かを考えます。	○	○	○	
	5			○	○	○	
		第2章 人生をつくる 1. 人生をつくる 2. 家族・家庭を見つめる 3. これからの家庭生活と社会	1. 自分のライフスタイルについて考え、様々な生き方について考えます。 2. 社会制度としての家族や家族と法律について学びます。 3. 仕事と家庭の両立について考えます。	○	○	○	
	6			○	○	○	
	7	第4章 超高齢社会を共に生きる 1. 超高齢・大衆長寿社会の到来 2. 高齢期の心身の特徴	1. 超高齢社会の背景と高齢者を支援することについて学びます。 2. 加齢に伴う心身の変化や高齢期の生き方について理解を深め、高齢期を支える社会の仕組みを考えます。	○	○	○	
2		第2回考査		○	○	○	
		第5章 共に生き、共に支える 1. 私たちの生活と福祉 2. 社会保障の考え方 3. 共に生きる	1. 家族を支える福祉について理解します。 2. 国などの支援体制について理解します。 3. 多様性を発揮してともに豊かに暮らせる社会について考えます。	○	○	○	
	8	半完成品エプロンの製作	ミシンの基本的な使い方を理解します。	○		○	
	9	第7章 衣生活をつくる 1. 被服の役割を考える 2. 被服を入手する 3. 被服を管理する 4. 衣生活の文化と知恵 5. これからの衣生活	1. 衣服の多様な機能や特徴を理解します。 2. 被服の材料や性能などを理解します。 3. 被服の洗濯や保管方法を理解します。 4. 和服や世界の民族衣装を理解します。 5. 資源の消費の視点で、自分の衣生活を見直します。	○	○	○	
	10	第6章 食生活をつくる 1. 食生活の課題について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食品の選択と安全 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎 (調理実習) 第4回考査 6. これからの食生活	1. 食生活の課題や食事の意義などについて考えます。 2. 栄養の種類や機能について理解します。 3. 食品の選び方や保存の仕方、食品の安全を確保する仕組みについて考えます。 4. 健康に良く栄養バランスの良い食事について考えます。 5. 調理の知識や技術を身につけます。 (調理実習) 6. 広い視野で食生活について考えます。	○	○	○	
	11			○	○	○	

	12	第8章 住生活をつくる 1. 住生活の変遷と住居の機能 2. 安全で快適な住生活の計画 3. 住生活の文化と知恵 4. これからの住生活	1. 住居の機能やライフステージごとの住要求を知ります。 2. 快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件について考えます。 3. 気候や風土の違い時代の変化によって大きく異なる住文化について理解します。 4. 環境に配慮した住生活について理解します。	○	○	○	
3	1 2 3	第3章 子供と共に育つ 1. 命を育む 2. 子供の育つ力を知る 3. 子供と関わる 4. これからの保育環境 第9章 経済生活を営む 1. 情報の収集・比較と意思決定 2. 購入・支払いのルールと方法 3. 消費者の権利と責任 4. 生涯の経済生活を見通す 第10章 持続可能な生活を営む 1. 持続可能な社会を目指して	1. 性と生殖に関する健康について学びます。 2. 子供の能力や心身の発達について理解します。 3. 子どもの生活習慣や衣食住について理解します。 4. 現代の子育て環境の変化や課題について理 1. 現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について学びます。 2. 契約の重要性について学びます。 3. 消費者保護制度について理解します。 4. 金融資産のマネジメントについて知ります。 1. 持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫しよう。	○	○	○	
3	3	第11章 これからの生活を創造する 1. 生活をデザインする	1. 持続可能な社会を構築していくために何ができるか考えます。	○	○	○	